

【臨床・研究】

浜田医療センター皮膚科，
平成23年下半期患者統計の検討しん どう まさ ひさ いし ぐろ しん ご
進 藤 真 久¹⁾ 石 黒 眞 吾²⁾

キーワード：人口統計，年齢別，病診連携，OTC，医師患者関係

要 旨

当科は，平成23年上半期までは週1回非常勤医師の外来診療だったが，下半期は常勤体制になった。新患年齢別統計と浜田市の人口統計¹⁾，平成21年の日本皮膚科学会（日皮会）学術委員会による年齢別統計²⁾とを比較して考察した。浜田市の年齢分布¹⁾と当科受診の年齢分布比較，平成21年日皮会誌の年齢別罹患率のデータ²⁾と当科受診の年齢分布比較のいずれにおいても，診療時間の関係で就学者，有職者は通院がしにくいと考えられた。湿疹・皮膚炎群，蕁麻疹・痒疹・皮膚掻痒症で外来新患の4割を占めた。蕁麻疹・痒疹・皮膚掻痒症，中毒疹・薬疹，母斑は全国平均よりも多かった。真菌症が少ないのは，平成21年に比して外用抗真菌剤のOver The Counter (OTC) 化の影響が考えられた。入院ではウイルス性疾患，細菌性疾患が多かった。手術では脂漏性角化症の冷凍凝固術が多かった。診療時間の面や設備面での病診連携が必要であることが再認識された。

はじめに

浜田市の皮膚科では有床診療所はなく，常勤皮膚科医のいる病院皮膚科の役割は，入院診療，ならびに他科との連携にある。皮膚科開業医で採血検査機器を完備しているところはあまりなく，内科的な検査を行っても，結果が出るのに日数を要していることが推測される。一方，病院皮膚科では採血検査が容易にできる。「皮膚は内臓の鏡」

と言われているが，病院皮膚科受診から内科疾患がみつきり，すぐに院内他科への紹介も可能である。また，浜田市内の開業医には液体窒素がなく，疣贅の液体窒素，脂漏性角化症の冷凍凝固術は当科で行っている。さまざまな側面から，常勤皮膚科医のいる病院皮膚科と開業医との病診連携につき考察してみたい。

外 来 統 計

(1) 地域別初診患者分類：平成23年下半期の全新患患者494人のうち，78%が浜田市からと圧倒的に多かった。駅直結の立地という利点もあって

Masahisa SHINDO et al.

1) 浜田医療センター皮膚科 2) 同 院長
連絡先：〒697-8511 浜田市浅井町777-12